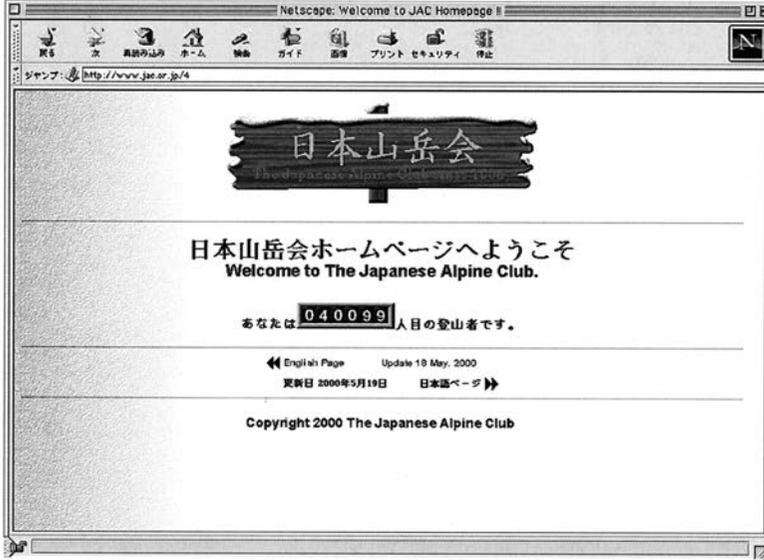


日本山岳会とインターネット

小委員会発足、データバンク研究会と役割分担へ



2000 年 (平成 12 年)
6 月号 (No. 661)
社団法人 日本山岳会
The Japanese Alpine Club
定価 1 部 150 円



JACホームページの表紙 (アクセス番号が表示される)

目次

日本山岳会とインターネット … 1
支部だより

- 岐阜・支部総会と懇親登山 … 4
- 山陰・新支部長を選出 … 4
- 秋田・朝日岳、志度内畚岳山行 5
- 山岳博物館散歩・2 河口湖美術館 5
- 海外の山 … 6
- 東西南北
- 有珠山噴火に想う … 7
- 登山史を大切にしたい … 7
- 韓国に「登山文化院」を開く … 8
- 短歌・けものみち … 9
- 和田峠から生藤山へ … 9
- 図書紹介 … 10
- 『南アルプス大いなる山・静かなる山』『北海道の百名山』『中央アジア踏査記』『近畿の山 I』『近畿の山 II』『The Himalayan Journal』
- 新入会員 … 12
- 図書受入報告 … 13
- 会務報告 … 14
- INFORMATION … 15

▶ 日本山岳会事務 (含図書室) 取扱時間
月・火・木 … 10~20時
水・金 … 13~20時
第 2、第 4 土曜日 … 閉室
第 1、第 3、第 5 土曜日 … 10~18時
▶ ルーム夏期休業日 … 8月12~20日

インターネット小委員会発足の経緯

日本山岳会がインターネットに関わりをもったのは、一九九四年十二月に、過去の海外登山の記録などをデータベース化することを目的として、資料委員会内にデータバンク (DB) 研究会が発足したことに遡る。その後、情報化が進む中で、インターネットが急速に普及し、本会でもホームページ (HP) や Eメールのシステム構築の必要性が叫ばれ、一九九七年の年次晩餐会を機に DB 研究会がその任にあたってきた。この間、海外からの多数の問い合わせに対応するなど着実に成果をあげてきたが、一方でその取り扱う範囲が余りにも幅広く、会の運営そのものに関わる問題が生じかねないなど、責任体制を含めた組織上の不備が指

摘されてきた。

そこで昨年十一月の理事会で、これらの問題に関する検討委員会 (世話役・森、委員・鯉坂、増山、高原の各理事と DB 研究会の三上委員で構成) を発足させ、DB 研究会からの意見聴取など数回にわたる討議を経て、次のような結論を得て、三月の理事会で承認され実行に移されることになった。

第一に、過去の JAC の登山活動 (主に海外登山) のデータベース化に関しては、DB 研究会で当初の目的に沿って今後も継続して作業を進める。またデータベースをより生かすための他登山団体とのデータの共有化については、DB 研究会を管轄している資料委員会担当理事を窓口とし、海外連絡、高所登山などの関係委員会と連携をはかりながら、その促進に努める。

第二に、ホームページの作成、更新とインターネットを通しての問い合わせといった広報活動については、総務委員会内に新たにインターネット小委員会を発足させ、総務担当理事一名が責任者となつて、その運営に当たる(今年度は高原理事が担当)。ただし、会長または右記責任者が有事(例えば遭難事故など)と判断したときは、会長または会長が指名した理事のもとに情報を一元的に集約し、該当事項に関するホームページの内容及びメールなどによる問い合わせへの対応などは、その指示に基づいて発着信する。

前記検討委員会では、この他にEメールによる問い合わせへの対応基準や次の項で述べるようなインターネットをより有効に生かすための活性化策、長期的視野に立った今後の対応策などについても提言している。今回のインターネット小委員会の発足により、二つの委員会の役割分担と責任体制の明確化に対応した組織上の整備は進んだが、実務上は当面多くの委員が両委員会を兼務せざるを得ず、緊密な連携のもとにそれぞれの責務を果たしていくことになる。

登山活動に資する登山記録のデータベース化とインターネットを利用した広報活動は、今後ますますその

重要性を増すことを念頭に、より多くの会員の理解と実務作業への協力をお願いするとともに、情報化社会の中での山岳会のあるべき姿を模索していく必要があると思う。

(検討委員会世話役・森 武昭)

■データバンク研究会の現状と今後の課題

過去のJAC登山活動(主に海外登山)のデータベース化の作業は、一九八〇年以降に『山岳』に掲載された多くの記録とマナスル関係の大部分は日本語と英語でHPに掲載している(図1・2参照)。その他についても漸次進行中だが、手不足の状態では作業は捗っていない。マニュアル化による作業促進(教育体制の整備を含めて)や作業メンバーの新たな募集などの改善が課題である。

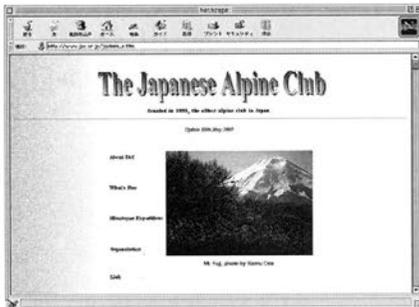


図1 英語版ホームページの扉



図2 日本語遠征記録(山名インデックス部分)

他の山岳団体とのデータベース共有化は、二年前にスタートし、諸般の事情で遅れていたが、最近になってデータの収集を行うなど活発に動き始めている。JACでは主に高所登山研究会が対応している。

登山記録に関しては、国内よりも海外からの問い合わせが多い。海外では日本の登山隊情報は結果程度で、大半の経過など詳細は不明な場合がほとんどと思われる。国内では、市販の雑誌などでもそれらの情報が報道されており、JACの登山記録以外の問い合わせについても、現状では海外連絡委員会や有志会員の情報助言を得て、可能な範囲で対応するようにしている。

将来は、JACだけでなく多くの登山記録をデータベース化していく、国内外のニーズに応えられる

ようにしていくことが望まれる。
(データバンク研究会
インターネット小委員会)

現在のJACのホームページ(<http://www.jac.or.jp>)は、会の紹介・会報の要約・行案内などが主体である(図3・4参照)。この他に前述の登山記録の一部が掲載されている。現状における最重要課題は内容の充実である。現在は、会員・非会員に関係なくアクセスできるようになっているが、JACが会員の会費で運営されていることを考慮するならば、当然会員へのサービスを主体に考えねばならない。

そこで、システム内に会員のみがアクセスできるページを設けて、会員のメールアドレスの公開(現在委員会では八十名の会員のインターネットアドレスを把握しているが実際にはこの数倍の会員が利用しているものと思われる)、各種委員会の活動状況(遭難対策委員会では遭難情報データベースを構築できるように現在準備中)、会議案内や議事録など郵便物のメール発送化、ルーム使用の予約、地方支部との頻繁な情報交換(現在は青森、東海、信濃の三支部がJACのHP内に掲載しているが、今後は支部独自のHPを開設す

る動きもある)など、多方面のサービスを展開していく必要がある。

また、会報の原稿は現在でもパソコンで編集され、HPの管理担当者にインターネット経由で渡され、該当号の会員への発送後、HPに要約を掲載している。今後会員に対しては、インターネットの速報性を生かして最終校正を終えて印刷中の会報記事をいち早くHPに掲載するなど、の施策も講じる必要がある。

以上のようなサービスを実施していくためには、会員のみが利用できるページを開設することが急務であり、今年度内の実現を目指して準備を進めているところである。

最近では、電話・FAXといった情報伝達手段と同様にインターネットのEメールが急速に普及している。JACでも住所変更などの事務手続

きをEメールで寄せる例が生じている。現在は、到着したEメールをHP管理者が事務局へ転送連絡している。電話やFAXと同様に事務局で日常的に取り扱えるように鋭意準備を進めているところである。

現在、JAC全体の窓口として公開しているメールアドレスは、info@jac.or.jpである。なお、その他に、委員会独自の連絡用として総務・図書・海外連絡の各委員会(非公開)及び避難対策委員会(準備中)が専用アドレスを設けている。

(インターネット小委員会)

■データ入力にご協力を!

データバンク研究会とインターネット小委員会はそれぞれの役割を果たすために前述のような課題に取り組んでいるが、委員のボランティア



図3 JACホームページの扉



図4 お知らせ・4月

表：山岳関係ホームページリスト

山岳関連の団体	
日本登山医学研究会	http://www.m.chiba-u.ac.jp/class/respir/jsmm.htm
日本ネパール協会	http://www.big.or.jp/~jns
海外山岳団体 (一部)	
英国山岳会 The Alpine Club	http://www.alpine-club.org.uk/
アメリカ山岳会 The American Alpine Club	http://www.AmericanAlpineClub.org/
スイス山岳会 Swiss Alpine Club	http://ourworld.compuserve.com/homepages/Richard-Liu/sac.htm
ヒマラヤンクラブ Himalayan Club	http://www.himalayanclub.com
地方自治体 (一部)	
富山県警	http://www.pref.toyama.jp/KENKEI/SANGAKU/INDEX.HTM
山梨県警	http://www.pref.yamanashi.jp/police/tiiki/tiiki.htm
長野県警・山岳情報	http://www.avis.ne.jp/~police/nsangaku.html
岐阜県警・北アルプス登山情報	http://www.pref.gifu.jp/POLICE/alps/
静岡県警・富士山/天城連峰等の情報	http://www.wbs.or.jp/cmt/kenkei/html/sangaku.htm
博物館、記念館 (省略)	
交通案内等 (省略)	
山岳ガイド、辞書、地図 出版社、フォーラム等:	
地図センター	http://www.nifty.ne.jp/forum/fyamap/jmc.htm
長野県山岳協会	http://www.nttl-net.ne.jp/nmaj/
信州山小屋ネット(信濃毎日新聞)	http://www.shinmai.co.jp/yama
山の展望と地図のフォーラム(FYAMAP)	http://www.nifty.ne.jp/forum/fyamap
気象情報	
日本気象協会	http://www.jwa.or.jp/index-j.html
防災気象情報	http://tenki.or.jp/
WNI Cyber Weather World	http://www.wni.co.jp/cww/index.html

に依存しており、人手不足が大きな問題である。平均年齢五十九歳のJACではあるが、パソコンを現実に利用しているか、または積極的に利用してみたいと思っている会員も大勢いるはずである。HP作成などの実務経験のある方はもとより、登山記録のデータベース化やHPのデータ入力など比較的簡単な作業でも協力していただける方はぜひ両委員会まで申し出ていただきたい。

インターネットを活用すると、天気予報、各県警の登山情報、交通機関の運行情報、山小屋情報などの情報を手軽にいつでも入手できるなど、利便性に優れ、安全、快適な登山に

大変有益である。また、山岳展望、山岳図書、博物誌などの山岳文化情報にも気軽に触れることができる。そこで、JACのHPでもこれらの情報を提供している団体などをリンク先としてリストアップしている(左の表参照)。

以上述べてきたように、情報化社会が進展する中で、JACでもこれに対応した施策を徐々に実行に移しているが、より有効に生かしていくために、会員の理解が得られるように努力するとともに、会員のニーズにあつたサービスを提供を心がけていきたいと考えている。

(総務担当理事・高原三平)

JAC 支部だより



全国各地の支部から、独自の活動状況をレポートします。

岐阜支部

支部総会と 下呂御前山懇親登山

四月二十二、二十三日、岐阜県益田郡下呂町の地方公務員下呂保養所「湯ヶ峰」において、大塚博美会長をお招きして、平成十二年度岐阜支部総会と下呂御前山（一四一メートル）登山を、会員、会友五十九名が出席して開催した。

高木崎男支部長から「平成十四年度は岐阜支部創立三十周年、記念大会を開催するにあたり準備委員を選任していただいて、今年度からその準備に取りかかっていただきたい」と挨拶があった。

大塚会長からは「山に登るクラブが、こうした畳の間に座って総会を開催することは、発言もしやすくよ

い雰囲気である」と、まずはお褒めの言葉をいただいた。そして、「私をはじめ理事一同はクラブサーバーパンの心で会務に専念しています。今夏はカナダ山岳会と合同事業で、アルバータ峰登頂七十五年記念登山とトレッキングを催します」と、本部の心意気と近況を述べられた。続いて議事に入り、平成十二年度事業計画など八議案を原案どおり可決し承認された。

懇親会に入って、丹沢邦夫さんな



62名の大所帯で登った下呂御前山

ど新入会員、会友の自己紹介の後、乾杯。いつものように賑やかに懇親を深め合う。

四月二十三日、寒冷前線が通過していたため、朝方小雨気味であったが、予定どおり八時に保養所を車で出発した。下呂町の温泉街から阿多野谷に沿って道幅の狭い林道を四キロほど登り、「山神」と刻まれた小さな石碑前で下車。身支度をして六十二名が八班編成で登った。杉や檜がよく手入れされているやや急な斜面のジグザクの径を、一時間ほど登ったら尾根に出た。どんよりとしていた空も次第に明るくなってきた。樹木もクスギ、ナラなどの落葉樹林に変わってきた。

往時を偲ぶ遥拝所の跡に着き一息入れる。気さくな大塚会長を中にして写真を撮っている支部委員の姿が見られた。

正午ちようどに頂上へ登った。大塚会長の音頭で万歳を三唱してから昼食。天気さえよければ雪に覆われた御岳の全容を美しく眺望できるのだが、当日は薄日が差しているものの、遠くの山々は裾野だけで、上部は雲に遮られてあいにく見ることができなかった。

大休止して下山にかかり、午後三時登山口に到着、下山者を確認して散会した。

(清水芳彦)

山陰支部

平成十二年度支部総会で 高田新支部長を選出



高田允克新支部長

四月八日、米子市内のホテルに大塚博美会長を迎えて二〇〇〇年度総会を開催した。

本年度は支部役員の改選期にあたり、四期八年間支部長を務めた吉川暢一会員に代わって、高田允克会員が第五代支部長に選出された。

高田新支部長は、一九四九年当支部創立以来の会員であり、その前年（一九四八）、第三代支部長だった港叶会員（当会名誉会員）とともに伯耆大山北壁大屏風岩を初登攀したことでも知られる。一九五一年、大山で開催された第六回国民体育大会登山（当支部主管）を機に、大山の精密な概念図や登攀ルート図を作成した功労者でもある。

事務局も新事務局長の吉川明秀会員宅（千六八九、四三三四 鳥取県日野郡溝口町畑池二〇〇九 Ⅷ&Ⅸ）に八五九、六二、七二五）に移転

山岳博物館散歩・2

富士山のふもとの 河口湖美術館



河口湖美術館は1991年4月に開館し、今年でキャリア10年を迎えることができました。富士山の北麓、河口湖の東北岸に位置し、湖を望む良好なロケーションが入館者の方々に喜ばれています。河口湖界隈を年間通過する観光人口は700万人にのぼると言われ、観光立地型的美術館ということになりましょう。

河口湖町が設置した公立美術館ですが、人口2万人に満たない自治体が取り組んだ地

方美術館としては、3つの展示室、壁面長約150mと非常に大きな施設を要しています。現在は常設展示と特別展を並行して年間5本のペースで開催しています。

収蔵コレクション約1000点のうち、開館当初からのスローガンである、富士山を描いた絵画や版画、写真などのコレクションは寄託品を含めて約400点になっています。限られた予算の中で、収集も展覧会活動も制限されるのは

やむをえないことで、今は長い目で見た活動を続けるよう心がけたいと考えます。

(学芸員・渡辺吉高)

河口湖美術館

住所：〒401-0304 山梨県南都留郡河口湖町河口3170

TEL：0555-73-2829

Fax：0555-76-7879

開館時間：9：30～17：00

休館日：火曜日、祝祭日の翌日(7～9月の火曜日、祝祭日の翌日は開館)

入館料：一般800円 大高生500円 中小生300円

交通：富士急行河口湖駅から②④番線バス10分「美術館前」下車徒歩7分
中央自動車道河口湖IC10分
河口湖周遊レトロバス「河口湖美術館」下車

した。
また、支部規定をほぼ全面的に改正し、現状に合わせるとともに、文面や語句は極力日本山岳会本部の定

款と支部設立ならびに運営に関する規定に準拠した。合わせて機構も一部改正し、当面する課題や将来への長期計画に備えて、山行企画委員会、

秋田支部

中高年には健脚コースの 朝日岳、志度内畚岳山行

四月九日、本年度初の支部山行を北奥羽の秘峰・朝日岳山群において支部会員八名で実施した。

この時期の秋田側は登り口の雪消えが早いので、藪を懸念して岩手県貝沢集落からの登りとする。本年は積雪量が多く、集落から雪上歩行となったが、例年より気温がやや高く雪の締りが悪い。

奥地の放牧場に立つ桂の太木からやや左前方の尾根に入り、ブナ林の美しい急斜面の尾根を登る。登りきると緩やかな幅広い尾根となり、畚岳を眺めながらの登りとなる。最後の急斜面を登って眺望のよい県境上の沢尻山に出る。ここから小荒沢大荒沢岳と登降を繰り返して朝日岳に至るが、左手側は急峻に切れ落ちっており、雪底には要注意のところでもある。

(新)日本山岳志委員会、山小屋調査委員会を新設した。
なお、昨年から続いている当支部創立五十周年記念事業も、まだ記念誌発行、記念展開催などが残っており、支部をあげてラストスパートに入ることを確認した。(小椋凱夫)

朝日岳の山頂からは、北に秋田駒ヶ岳、南に和賀、高下岳の雄姿、そして西には太平山地が広がり、快晴のもとに白一色の大パノラマを満喫した。

一休み後、北隣に位置する志度内畚岳を往復したが、この山はなかなか登るチャンスのない山の一つである。帰りは雪がやわらかく、かんじきを着けても時々足をとられながらの下山となったが、しっかりと定着したスパイクつき長靴が威力を発揮して無事下山。山中行動十一時間、秋田市より日帰りの中高年にとってはかなりの健脚のコースであった。(佐々木民秀)

北アルプス白馬連峰

ゆっくりとした登山をお楽しみください。

素泊り、山行中の継続
駐車もできます。もよ
り駅、登山口等、送迎
いたします。

和牛料理の宿

ひまわり

長野県北安曇郡白馬村神城22114-17
TEL (0261) 75-2292(代)
FAX (0261) 75-3284

海外の山

エヴェレスト
63歳の登頂

江本嘉伸

最高齢登頂世界記録となった山本俊雄
(チョモランマBCで：法政大隊撮影)

山はエヴェレストだけでは、世界最高峰はやはり話題に事欠かなかった。先月書いたことの続き。

まず、日本人が登頂最高齢記録を大きく塗り替えた。

チベット側から入山していた法政大学の登攀隊長、山本俊雄は五月十九日午前一時三十分、シェルパのパサンキダル(二二)、ナワンドルジェ(三五)とともに第六キャンプを出発、九時三十八分に八八四メートルの頂上に立ち、この瞬間世界最高年齢登頂記録を更新した。山本はこの日六十三歳三百三十一日、昨年五月にサルキーツフが達成した「六十歳百六十一日」を三歳以上も上まわっていたのである。

五月十七日そろって頂上を目指した日本の三隊の成果は大したものだった。法政大隊は、シェルパの村として知られるロールワリン出身の強いシェルパたちのルートワークで先行し、三次にわたるアタックのすべてに成功、山本を含む四隊員と六人の

シェルパが登頂した。

東北地区隊も五月十七日に八嶋隊長ら三人が、十九日にはさらに三人が登頂した。その一人、山形県の今野一也は六十一歳で、その時点でサルキーツフの記録を抜いて最高齢登頂者となった。北海道エベレスト登山隊も十七日、江崎幸一隊長ら三人が登頂、うち高橋留智亜(ちあ)隊員(三四)は、日本女性四人目の登頂者となった。

天候を逃さずにアタックし、どの隊も無傷で下山したことは、特筆されていいが、それにしても、恐れ入った中高年世代の頑張りである。

山本自身は「登れたのは、運」です。隊として天候の読みが実によかった」と、控え目だが、六十三歳の登攀隊長の登頂は、ベースキャンプより上には登らない隊長や熟年サーブが普通だったヒマラヤ登山の「常識」をあらためて粉砕した。

大学山岳部が気を吐いた、という見方もできる。明大、愛知学院大、

日大、立正大と続いてきた大学山岳部組織のエヴェレスト挑戦を法政大隊は、高年齢者中心にやつてのけたのである。

五年前、山岳部創立七十周年を記念してチョーオユー(八二〇一メートル)に挑戦、全員登頂の成果をあげ、そこから「次はチョモランマ」という目標ができた。しかし、当初は「単なるシルバー隊では」との逡巡もあつたらしい。それだけ山本以下シルバー世代が本気になったということだろう。

中村敏夫隊長は隊のホームページに「この成功は登頂者だけの榮譽ではなく、参加十八名全員の勝利であり、サミットの瞬間はこのときばかり拳を上げ、泣き叫び校歌を歌った。(中略)創部七十五年いつかは、誰かが果たさなければならぬ宿命だったようにも思える」と書いている。

そのチョーオユーでは、イエティ同人隊の平田恒雄(広島県)が六十五歳の登頂を果たした。これまた八千メートル峰登頂最高齢記録である。谷川岳滝沢リッチで惜しくも遭難した芳山の吉尾弘会長のケースもある。人の行かない難ルートをめざすごく一部のクライマーを別にすれば、還暦を過ぎた現役がここ当分は山の世界をひっぱってゆく気さえる。

ところで、エヴェレストでは女性

のほうも最高齢登頂者が出た。ポーランド女性のアンナ・チェルピンスカで、五十歳。九六年五月、難波康子(下山時遭難)の四十七歳をこれまた三歳上まわった。

記録ついでにいえば、スピード登頂記録も更新された。ネパールのバブ・チリ・シェルパで、五月二十一日、ベースキャンプから頂上まで十六時間五十六分で登ってしまった。無酸素である。

一九八八年九月二十六日、フランスのマルク・バタールが二十二時間二十九分でエヴェレストのてっぺんに立った時、世の中は驚愕した。「エヴェレストを速く登ることに」に情熱を傾ける者がいることに驚いたのだ。エヴェレストに三回の登頂経験を持つ三十三歳のカジ・シェルパは、その記録に挑戦した。九八年十月十六日、五人の仲間支援されて、頂上に向かい、「十八時間以内」の目標は達成できなかったが、「二十時間二十四分」のスピード記録を作った。今回、三十四歳のバブ・チリ・シェルパはそれを、さらに三時間半ほど縮めたわけである。

新ミレニアムを迎えたエヴェレストで、半世紀前には信じられない記録がつけられつつある。そのことは、半世紀前まで難攻不落だったこの山が、登山の対象として大きく変質しつつあることの証しでもある。

東西南北



イラスト・宇都木慎一

有珠山噴火に想う

高澤光雄

有珠山は今年三月三十一日に有史以来八度目の噴火を繰り返した。事前にハザードマップなどで避難場所など公表していたので、噴火前に出された日本初の「緊急火山情報」によって、避難した住民の生命は守られた。しかし長引く噴火活動で、被害地の方々を思うと心情おだやかではない。

幌行きのJR特急列車が乗客の協力を得て、長万部駅で打ち切り、急遽豊浦駅に向かって避難住民を運ぶなど、噴火後の経過を克明に記録。事前に噴火予測した岡田弘・北大教授も紹介されている(A4判六四ページ、六百三十円)。いささかなりとも役立てればと思っている。

日本山岳会百周年記念出版として、仮称「新・日本山岳志」の編集作業に入っているが、原本の明治三十九年刊、高頭式編「日本山嶽志」に有珠嶽は掲載されている。谷文晁著「日本名山図絵」の「白岳」を挿入し、「奇観なり、岩上に小堂あり、樹木陰森、大白山善光寺の旧跡にして、慈覚大師此処に留錫して、草庵を結びたり」とある。

国学者・菅江真澄が寛政三年(一七九二)六月十日に白岳に登り、道中記「蝦夷廻天布利」に「修験僧円空がこの地を訪れ、仏像の背面に(寛文六年(一六六六)丙午七月始登山、うすおくの院の小島 江州伊

吹山平等石之僧円空」と記し」とある。円空が訪れる三年前に有珠山は大噴火しているので、鳴動と火炎を冒しての荒修行だったのであろう。

宝暦の頃(一七五一〜六四)の作とされている「蝦夷島全図」には、赤々と噴煙をあげている山の絵が描かれ、「焼山(ウシヨロ)善光寺」と地名が記入され、駒ヶ岳、恵山、樽前山なども描かれ、当時の地図は火山が重要な位置を示していた。

明治四十三年(一九一〇)の噴火では明治新山を形成した。その後は登山の風潮も大衆化し、大正十二年に札幌鉄道局運輸課で編集発行された「北海道登山案内」によると、「小有珠岳には薬師地藏尊が祀られ、登山口に休憩所を設け、毎年九月の秋季皇霊祭には三百人からの登山者があり、一年を通じて登山者数千人の多きに達する」とある。当時は駒ヶ岳、樽前山を含めて火山は観光ルートになっていた。

私がこの山に登ったのは昭和三十五年八月、職場の慰安旅行が洞爺湖温泉で催され、同僚六人で抜け出して登ってみた。噴煙なびく明治新山から外輪山に登り、銀沼に至る火口には広葉樹が繁り、牛馬が放牧され、とても噴火口とは思えないのどかな光景であった。外輪山を一周する登山路も整備されていた。

昭和四十年、昭和新山のある有珠山麓から外輪山にロープウェイが通じ、観光の山となった。昭和五十二年の噴火後は外輪山の危険地帯は入山禁止となり、地形図から登路は抹消されている。今回の噴火沈静後、この歴史的に由緒ある山が、どのように変貌したか、眺めに登ってみた

登山史を大切にしたい

田畑真一

「山」四月号に掲載された山村正光氏の「山名を大切にしたい」を拝読

日帰りからキリマンジャロ、マッターホルンまで

全国ネットの山旅専門店!
安全で快適な山旅を。中高年から一人様までサポートします。各コース経験豊富なツアーリーダー同席で安心。

おすすめオリジナルプラン手配OK
人気の山旅スタイル、気軽に同席せよ!

2000年度カタログ
国内246コース、海外111コース、自然に学ぶ旅36コースの総合カタログ(全134ページ)をお送りします。各地発着それぞれのカタログをご用意しました。送付無料。

アミューストラベル株式会社
〒160-0023 東京都新宿区西新宿1-22-2 新宿サンエビルB1
TEL 03(5325)1256 FAX 03(5325)1258
大 06(6456)3366 名古屋 052(588)5617 福岡 092(414)5566
広 082(502)2525 北海道 011(20)802(514)(東京へ転送)

した。山村氏は山名がおろそかにされている現実を直視され、実例をあげられた。そしてこれらが歴史的にしかるべき経緯によって名づけられた点をも紹介された。私は説得力を感じて、なるほどと勉強させていただいた。

しかも山村氏の「日本の近代登山の黎明期から……この貴重な成果をいとも簡単に変えてほしくない」とのお声だ。まことにもつて至言であり、私を含め、世の登山者の心すべきことと感じ入った。不明や勘違いなどからくる一山岳会などによる命名などあつてはならないこと、山村氏の言われるとおりであり、私たちは命名経緯が明らかな正しい山名のみを受け入れ、これを正しく認識していきたいと考える。

これと関連し、観光案内書などに紹介される登山史上の誤った記事が堂々と目の目を見、全国的に販売されている人ならいざ知らず、一般の観光客であれば、誤った知識を読み、これが正しいやに受け入れられてしまう。危惧を感じて残念でならない。たとえば業界最大手の某社発行「上高地乗鞍美ヶ原」平成十一年版だ。ウェストンの事績について「上高地には一八九一年(明治二十四)に初めて訪れ、この時ここで明神池近く

に住む上條嘉門次と出会い、嘉門次のガイドによって穂高岳登山を果たした」とある。同年、ウェストンは徳本峠を越え、明神から槍ヶ岳をめざした。帰路も明神から徳本峠を越えた。だから上高地へは訪れてはおらず、上高地に初めて訪れたとするのは誤り。ウェストンは安曇村にあった清水屋に泊まり、主人の斡旋による猟師三人のガイドを得た。それで「上條嘉門次と出会い」も誤り。高岳登山を」というのも誤り。したがってこの記事は誤りに満ち満ちている。すべてが誤りだ。ウェストンが初めて上條嘉門次のガイドを受けたのは、明治二十六年八月、前穂高岳登頂時であり、上高地への訪れも明治二十七年八月のことだった。

韓国近代登山の本籍地に「登山文化院」を開く

韓国山岳会 孫慶錫

都の西北の夢ではないが、韓国の首都ソウルの東北には、壮麗なる岩峰がそそり立ち聳えている。その名

は北漢山塊、最高峰の白雲台をはじめ仁壽峰、萬景台の三峰が都の平原を守っている。この峰々は、一九二五年に韓国における近代登山の黎明を飾る原点の地であり、また八〇〇メートルへの挑戦に励むアルピニズムの現住所でもある。

私は日ごろ、このゆかりの地に登山博物館と山岳図書館を創りたかった。半世紀以上にわたる山への夢。古希を過ぎた今、何とか燃やしつづけた夢を実現させたかった。山岳会の現職からも退役？し、また榮譽あるJACの名誉会員にもなった。この秋には、と逸りたつたのである。

昨秋、この北漢山麓、牛耳洞に新築された山荘風の建物が竣工したのを見つけた。仁壽峰へのハイキングの帰途であった。すぐ賃賃を申し込んだ。名ばかりだがマントルピースもある。所狭しとばかり積み重ねていた山書約一万冊を移し、山岳書および資料展示と、五十年間使いこんだ思い出多き山道(地図)を並べ、「登山文化院」として開設した。これが昨年の十一月二十八日である。

私が山をはじめて五十五年目になる。初めてJACと関わりをもった御茶ノ水岸体育会館時代の一九六一年、ルームのぎつしりと詰まった書架に感銘を覚えた。それから本格的な山書蒐集に神田を探し回った。そ

して四十余年、時には床のスペースまでなくなるほど、狭い書齋が本と地図と資料の蔵と化した。

山に登り、山を読み、山を書く半世紀。今年で二十九冊の山の本を刊行した。あと一冊で三十冊になることもあつて、登山史を山の月刊誌に連載中である。そうした積み重ねと、ガラクタと叱られながら集めた諸々を「登山文化院」に移し、創設記念には世界登山史の写真展を開催したのである。これで山へ憑かれた道楽息子ならぬ古希の老いほれも、一応の人生の締めくくり、と一人苦笑している。

この文化院創設に先立ち、九七年には韓日山岳文化交流会(日韓山岳文化交流会)を、多くの仲間とともに設立した。現在日本の友人たちにも日本側設立を呼びかけている。山は両国にとつて歴史の舞台であり、文化の背景であり、また山に生まれ、山で育まれた共有のルーツがある。

長い日にわたり交友してきた諸兄らも、これに共鳴してくれて大変ありがたい。これからも意義ある交流に花を添えたいと思う。

週末には文化院を尋ねる登山者が増えつつある。夜更かししながら読んだ山書と資料集、そして愛蔵の書が、人々に読まれるのを眺めては心強く思っている。一万冊近い山書は、

実は仲間たちから寄贈されたものが大分ある。また、自分の著書と交換して集めたものもある。

日本語を読める人々は、世界中で韓国、中国が大方を占めているのも現実である。JACの図書室にはこの何十倍のコレクションがある。余分、二重の書もあると聞く。その一部でも寄贈していただければより充実した「文化院」になると確信する。そしてここをベースに山を語り、山を読み、山を書く集いのサロンにしたいものである。歴史とともに山の匂いが漂う空間になると思う。

ここでセミナーを開き、ここが展示会場ともなる年間計画も立てなければと思いが、我が家を顧みたくもなつたような書齋からは、北漢山、仁壽峰の岩峰が、春の黄色いレンギョウに包まれて眺められた。

短歌

けものみち

攀りきてけもの如く耳澄ますまだ
新しき糞をみてより

けものみちまだ柔き糞臭い立つわれ
もけものとなりて見詰めり

通せんぼされたる如し巨き糞にこれ
より先はけもの径なる

都の東北の「登山文化院」がその麓にあるのだ

和田峠から生藤山へ

松岡 繁

路のとうが出そらい、梅が五分咲きの二月十三日、満開となる三月十一日に都県境に聳える生藤山を歩いた。落葉樹林のたたずまい、一〇〇メートル前後の山頂からの美しい景観と、登山者との出会いと挨拶は楽しく、活力が湧く山行だった。

JR中央線の藤野駅から約一〇キロの和田峠付近に車をデポし、十分登山道に取り付く。約三十分で醍醐峠、醍醐丸までは杉と檜の植林帯、急坂の登りがうれしい。十一時、標高八六七メートルの醍醐丸に登頂、

大橋克也

雪渓を黒ずむ岩稜切り裂きて奈曾の
カールは寄せつけぬ貌

鎮けさを峯に蔵いて陽は沈むその朱
とても明日を約せず

風歌う雲の切れ間にあおき星名を知
らざれば瑪瑙座と思う

八王子市の最高峰である。北側斜面に三、四センチの残雪。奥多摩の山々がよく見えた。連行峰への道の両側は、ナラ、クスギ、リョウブなどの雑木林で、落ち葉のじゅうたんである。早春の陽光の心地よい温もり、茅戸の陽だまりで昼食。

この冬は雨も雪も少なく乾燥しているから、登山靴で踏むと土ぼこりが舞う。二組の食事の夫婦に「ほこりや落ち葉が飛ばないように静かに歩きます」と声をかけた。「素敵な環境です。枯葉も土ぼこりもふりかけと同じ、遠慮なく歩いてください」の言葉が返ってきてうれしかった。

茅丸(二〇一九メートル)は丈の

低い熊笹が茂り、ミスナラや赤松林となつている。少し下った鞍部で中年の三十六人の団体と出会う。道を譲ると二人一人が「ありがとう」と挨拶してくれる。やや急な登りのうち二等三角点の生藤山に到着した。奥多摩、大菩薩連峰、丹沢山塊、白銀に輝く富士山と大パノラマだ。

和田峠から生藤山は四・九キロ行程の平凡で一般向きのコースだが、途中には水場も避難小屋も茶店もないから、水筒も食料も一通りの準備は必要である。二月は六十七人、三月は七十一人と出会った。足ならしと、賑やかな低山志向を楽しんだ山行だった。

●新ハイキング選書●

藤井寿夫著

中央線の山を歩く

A5判・286頁・定価1680円(税込)

中央線の山を歩いて50年、中央線の山107座の紀行と案内。朝立ち、日帰りの範囲内、あまり登山者の歩かれていない山に重点を置いている。読物としても楽しい。最新刊 増刊出来

●深田クラブ編●

深田久弥の研究

読み、歩き、書いた

飯島齊 高澤光雄 高辻謙輔 深田クラブ編集部 共著

A5判・387頁・定価1680円(税込)

深田久弥の研究に造詣の深い三氏が、深田クラブ会報に、永年にわたり発表された成果をまとめたもの。深田久弥はこの一冊で全貌を顕す。

新ハイキング社

東京都北区滝野川 7-6-13

電話・FAX 03(3915)8110

図書紹介



イラスト 蜂谷益雄

永野敏夫・永野正子・著

『南アルプス 大いなる山・静かなる山』

九十年前の「山岳」に黒法師岳大無間山の紀行文が載っている。あらかじめ地元役場に問い合わせたところ「猟師も十分知れる者少し、登山者絶無、絶巔まで密林：唯猛獣の巣窟あるのみ」との返事であったとある。猛獣の巣窟はともかく、南アルプス深南部は、今なおそんな探検登山時代の雰囲気の色濃く残している山域である。

本書は深南部を中心とする南アルプス南部の記録集である。これだけ詳細に南アルプスを紹介した本は初めてであろう。著者（本会会員、静岡

原稿掲載について

- 会で購入、あるいは寄贈されたルームにある本を紹介する。
- 毎月図書委員会の折に会報「図書紹介」委員で検討し、紹介する本を決める。
- 紹介依頼者を決め原稿依頼する。
[著者からの依頼で書いてくる方、ご自分でよいと思った本の紹介を書かれてくる方などがあると、委員会で依頼した方と原稿が重複することがあり、原稿をお願いした方に失礼にあたるので、会報「図書紹介」担当の細井が調整させていただいています。紹介スペースに限りがあり、原稿の長さを指定しています。]
- 以上の手順で紹介していますので、よろしく願います。
- 紹介されなかった寄贈本については図書室受入報告という形をとっています。 (細井澄子)

支部)は安倍奥から始まって、南アルプス、ヒマラヤ、アルプスを遍歴して再び南アルプスに回帰し、「ヤブ山登山こそ日本の究極の登山」との境地に至った。岩登り技術から動物的な勘まで総合的かつ応用的な能力が要求されるからである。

深南部のほか、大井川東俣・西俣・東河内源流域、白峰南嶺など百二十ルートを紹介している。その八割方は人跡も稀であり遊志を誘う。これら山域に関心を寄せる者にとっては貴重な情報源である。(南川金一) 二〇〇〇年三月 黒船出版 三五〇ページ 二千四百円 申込は著者へ

道新スポーツ・編

『北海道の百名山』

北海道の山と谷は、その原始性のびやかさ、登攀的要素など多様性に富んでいる。北の大地は、他府県

の追隨を許さない「山国」なのである。本書は、こういう山々から百座を選定して、新旧世代の執筆者が自身の登山体験と回想を万感の思いを込めて語っていて、熱気が伝わる。各章とも登山史にふれていること、臨場感をかきたてている。添えられた写真は、アマ、プロを問わずに公募したもので、撮影者のほとんどが道内の山好きの写真家であるから、山の最も特徴的な姿を最も美しい季節にとらえている。

ところで、本書は「百名山」にこだわったため、選考に漏れてしまった山があるのでは、と北の山を愛する者の一人として気にかかるものがある。たとえば、この四月初旬に吹雪のために登頂を阻まれたからあげのわけではないが、積丹山塊の余別岳などは、十分に選考の基準を満たしていると思うのだが。また、五十音順の山名索引があれば、道外の

者にはありがたかったのだが。ともあれ、多くの人が本書を読み眺めて北海道の山々に登っていただきたい。北の山での体験を反芻するための座右の書であることも確かである。(松沢節夫)

二〇〇〇年五月 北海道新聞社発行 二一五ページ 千六百元

オーレル・スタイン・著

澤崎順之助・訳

『中央アジア踏査記』(新装版)

この本の旧版の第二刷が出版されたのは一九七三年だから、すでに二十七年もたつ。同書にはスタインの三次にわたる中央アジア踏査行が入っているのだが、それぞれの旅をトレースするのは少々厄介だった。だが少し前に第一次の踏査行「砂に埋もれたホータンの廃墟」が出版された。これを読むと第一次の踏査の内容がはつきりし、したがって本書が敦煌の千仏洞での王道士から経典や絵画を入手する第二次の旅(一九〇六〜八年)のハイライトを中心に据えて、第二次踏査を前半で詳しく述べていることが明瞭になる。そして後半では第三次踏査行(一九一三〜一六年)が記されているのだが、その中でも最後の何章かのパミール行の記述には驚かされる。本書にはパ

ミール詳図がないのでわかりづらいが、筆者は自分で作ったパミール地形図でその足跡をトレースしたところ、スタインはパミール中央部の峻険な山岳地帯を通り、玄奘やマルコ・ポーロも通ったとされるゾル・クリ湖(ヴィクトリア湖)まで南下し、さらにはパミール西部の氷河山岳地帯を北上し、つい最近日本人拉致事件の舞台にもなったカラテギンにまで達しているのである。隊長と隊員をかねたスタインの長期間かつ長大な踏査記を読むと、現代のいかなる探検行もニアチャール探検に墮してしまうのだ。(田村俊介) 二〇〇〇年一月 白水社発行 三二〇ページ 三千四百円

松村武生・著
岳人ポケットガイド

『近畿の山―三重・滋賀・京都』
『近畿の山Ⅱ大阪・兵庫・奈良・和歌山』

日本山岳写真協会会員の著者が定年退職の年にこの本の執筆相談を受けて、のんびりする暇もなく三年近く歩き回った成果としてまとまったのが本書である。

このシリーズは二十三部からなっていて、スタイルが統一されているはずなのに、手にとって見るとわず

かずの違いがある。それは執筆者の個性を活かした企画の現れのような。この二冊が特に個性を発揮しているのは、ルートの案内が詳細を極めているところだ。それは著者が歴史を含めて最新の情報を提供したいという気持ちで、詳細な記録を残しながらの表現であり、確かに歩いた人にかき書けない案内である。掲載された写真も素晴らしい。

シリーズのスタイルとして、交通、宿舎、装備表などの内容が充実していて親切である。末尾に「おちこちプラン・サブコース」と称するカラ一以外のページで十余の山を紹介しているが、数を追加した付録のように見えるのが残念だ。(阿部和行) 二〇〇〇年四月 東京新聞出版局発行 一三八ページ 各千円

『THE HIMALAYAN JOURNAL』
Vol.55 1999

「ヒマラヤを越える鶴」(松田雄二)、

「ヒマラヤの東」(中村保)といった本会員の貴重な論文が掲載されており、内外の岳人や研究者の注目を集めていることだろう。また目次では「サイパル遠征」(野沢井歩)の登攀記や、追悼にも邦人名が目につく。

インド女子隊が標高三〇〇〇メートル以上の三十九の峠(最高五七五

〇メートル)を越え、東インドからブータン、シッキム、ネパールそして再度インドに入りカラコルム峠まで雪やクレバスに苦闘しながら百九十八日かけて四五〇〇キロメートルを踏破したトレッキング記事は圧巻。

六十四年前のシプトンとティルマンの足跡をたどってパドリナスからケダルナスへ分水嶺を歩いた英隊と、別ルートをとったジョン・シプトン(シプトンの息子)隊がケダルナスで合流といった記念すべき報告も興味深い。

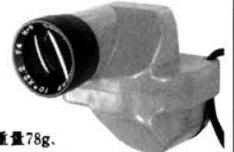
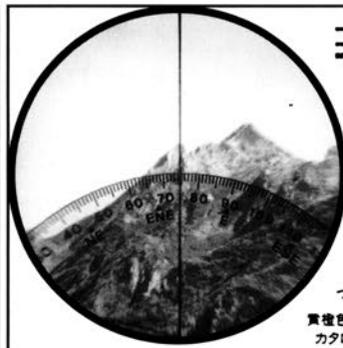
シアチェン氷河のカパディア(当ヒマラヤン・ジャーナルの編集長)隊は源流のインディラ・コルに至り、六〇〇メートル峰の初登頂に成功した。報告書の中で軍隊駐留が自然破壊を促進していると指摘し、一日も早い紛争終結を訴えている。同様に元シアチェン氷河隊指揮官も氷点下四〇度の六〇〇メートルを越す駐屯地での惨状や自然汚染に言及し、インド・パキスタン国境に「シア(薔薇) 国際公園」の設立を提唱している。

その他クリス・ボニントン隊の初登頂挑戦や書評の「A STRANGER IN TIBET」(河口慧海の物語)など読み応えがある。(南井英弘)

HIMALAYAN CLUB (Bombay)
刊 三二二ページ

コンパスグラス HB-3

広視野10°の明るい視野に目盛が重なって見えます。見た目標がそのまま正しい磁気方位です。



重量78g.

つや消し黒 ¥17,000 送料 ¥ 600

黄橙色メタリック ¥18,000 消費税別

カタログ代無料、電話、FAX、葉書どうぞ

〒177 東京都練馬区上石神井1丁目37番13号

株式会社 石神井計器製作所

TEL 03-3928-5411 FAX 03-3928-5411

極東の辺境で山と温泉と花々を楽しむ

カムチャッカ半島

アバチャ山登頂 8日間

発着地 新潟・カムチャッカ直行便利用

出発日 ●7/22 ●7/29 ●8/5 ●8/12 ●8/19

¥298,000 ~ ¥346,000

運輸大臣登録一般旅行業490号/日本旅行業協会正会員

ALPINE TOUR SERVICE 株式会社

〒105-0003 港区西新橋1-12-1 (西新橋1森ビル) TEL 03-3503-1911
大阪 ☎06 (6444) 3033 名古屋 ☎052 (581) 3211 福岡 ☎092 (715) 1557

図書受入報告 (2000年3~4月)

著者	書名	ページ・大きさ	出版元	出版年	寄贈/購入別
大阪50山編集委員会 (編)	大阪50山：大阪五十之峯峰	150pp/26cm	大阪府山岳連盟	1998	発行者寄贈
中島英明 (編)	天山夢紀行：1990年シルクロード「同人峰」からの報告	63pp/26cm	鳥取岳同人	1993	発行者寄贈
橋本民好 (編)	天山夢紀行：1997年シルクロード「ブルクット」からの報告	105pp/30cm	鳥取岳同人	1999	発行者寄贈
山岳写真同人(四季) (編)	写真集 我が心に映る山	82pp/25cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
廣瀬誠	地震の記憶：安政5年大震大水災記	260pp/21cm	桂書房	2000	著者寄贈
宇都木慎一	天保山から富士山へ：東海自然歩道を辿って900km35日の徒歩旅行	154pp/26cm	宇都木慎一 (私家版)	2000	著者寄贈
関西学院大学山岳部 (編)	DAS EDELWEISS No.17 (山岳部80年史)	395pp/30cm	関西学院大学山岳部	2000	発行者寄贈
星野吉晴・本島護 (編)	友好のピーク キズ峰：交流の樹 長野・西蔵合同登山隊1997	64pp/30cm	長野西蔵合同登山隊	1999	発行者寄贈
大蔵喜福 (編)	マッキンリー気象観測 1990-1995：JAC Mt. McKinley Wind Measurement Exp.	49pp/29cm	JAC科学委員会	2000	当会発行
同人シルバートール (編)	夢 時を越えて：チョー・オユー、ダウラギリ主峰、ガッシュブルムII峰	216pp/26cm	同人シルバートール	2000	発行者寄贈
松本清	よみがえれ池塔よ草原よ：巻機山ボランティアからのメッセージ	285pp/19cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
大蔵喜福 (編著)	野外のエマージェンシーブック (Outdoor Handbook No.22)	191pp/19cm	地球丸	2000	著者寄贈
早川禎治	傷ついた自然の側から：手稲山 (タンネウエンシリ) 紀行	253pp/19cm	中西出版	2000	著者寄贈
長野県山岳総合センター (編)	長野県山岳総合センター30年の記録 (平成12年3月)	48pp/29cm	長野県山岳総合センター	2000	発行者寄贈
大久保昭次	ぶらり・山と花のひとり旅	318pp/20cm	近代文芸社	2000	著者寄贈
山田哲雄	私の山日記 Vol.3：YAMADAの山スキーワールド	298pp/21cm	山田哲雄 (私家版)	1999	著者寄贈
Harish Kapadia (ed.)	The Himalayan Journal Vol.55 (1999)	313pp/22cm	Oxford Univ.Press	1999	発行者寄贈
Harish Kapadia (ed.)	The Himalayan Club Newsletter 53 (2000)	62pp/25cm	The Himalayan Club	2000	発行者寄贈
早川敦 (編)	インド・ヒマラヤ登山隊1999 ナンガル・チョティ報告書	58pp/30cm	明治大学炉辺会	2000	発行者寄贈
永野敏夫・永野正子	南アルプス 大いなる山 静かなる山：知られざるルート120選	348pp/22cm	黒船出版	2000	著者寄贈
カナダ大使館広報文化部	カナダへ日本：歴史と現在、そして将来の展望	107pp/21cm	カナダ大使館	2000	発行者寄贈
鳥海山ワシタカ研究会 (編)	鳥海山南麓のイヌワシ (2000年2月)：繁殖巣の修復報告書	64pp/30cm	鳥海山ワシタカ研究会	2000	発行者寄贈
山本紀夫・稲村哲也 (編著)	ヒマラヤの環境誌：山岳地域の自然とシェルパの世界	351pp/22cm	八坂書房	2000	出版社寄贈
クラカワ (著) 森雄二 (訳)	エヴェレストより高い山 (朝日文庫 く-18-1)：登山をめぐる12の話	318pp/15cm	朝日新聞社	2000	出版社寄贈
棚橋靖	ナンガ・パルパット登山報告書1998	34pp/29cm	棚橋靖 (私家版)	2000	著者寄贈
プランニングコート (編)	外国人が残した日本への功績 [和英2ヶ国語版]	206pp/22cm	WEIS	2000	編者寄贈
日本ヒマラヤ協会 (監修)	ヒマラヤへの挑戦 (第1巻)：8000m峰登頂記録	338pp/27cm	アテネ書房	2000	出版社寄贈
道新スポーツ (編)	北海道の百名山	213pp/22cm	北海道新聞社	2000	高澤光雄氏寄贈
佐々木民秀 (編)	日本山岳会秋田支部創立40周年記念誌	131pp/26cm	JAC秋田支部	2000	秋田支部寄贈
日本登山医学研究会 (編)	第20回日本登山医学シンポジウム：プログラム・抄録 (2000.6/3-6/4)	51pp/30cm	日本登山医学研究会	2000	発行者寄贈
松下順一	悠遊大山 [画文集]	167pp/21cm	今井書店	2000	出版社寄贈
大蔵喜福・沢野ひとし (絵)	エベレストのほらせます：中高年のためのわがまま登山術	223pp/19cm	小学館	2000	著者寄贈
椎名誠	あやしい探検隊アフリカ乱入	210pp/19cm	山と溪谷社	1994	大蔵喜福氏寄贈
椎名誠	あやしい探検隊バリ島横恋慕	286pp/19cm	山と溪谷社	1998	大蔵喜福氏寄贈
加藤文太郎	単独行 [新編] (Yama-kei Classics)	269pp/20cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
小西政継	マッターホルン北壁：日本人冬期初登攀 (Yama-kei Classics)	237pp/20cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
田部井淳子	エベレスト・ママさん：山登り半生記 (Yama-kei Classics)	253pp/20cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
松濤明	風雪のピヴァーク [新編] (Yama-kei Classics)	301pp/20cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
エルゾグ (著) 近藤 (訳)	処女峰アンナブルナ：最初の8000m峰登頂 (Yama-kei Classics)	347pp/20cm	山と溪谷社	2000	出版社寄贈
三和裕吉・三和史朗	北海道の山 (I) 道北・道東・大雪 (岳人ポケットガイド No.16)	138pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
三和裕吉・三和史朗	北海道の山 (II) 道央・道南・日高 (岳人ポケットガイド No.17)	138pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
松村武生	近畿の山 (I) 三重・滋賀・京都 (岳人ポケットガイド No.18)	137pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
松村武生	近畿の山 (II) 大阪・兵庫・奈良・和歌山 (岳人ポケットガイド No.19)	138pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
奥田博	会津の山 会津駒ヶ岳・磐梯山 (岳人ポケットガイド No.20)	138pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
渡辺隆	妙義山と上州の山 (岳人ポケットガイド No.21)	133pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
渡辺隆	浅間山・上信越高原の山 (岳人ポケットガイド No.22)	134pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
斉藤誠	北信の山 (岳人ポケットガイド No.23)	138pp/18cm	東京新聞出版局	2000	出版社寄贈
Jim Whittaker	Jim Whittaker: A Life on the Edge; Memoirs of Everest and Beyond	272pp/24cm	Mountaineers	1999	著者寄贈
Peter Steele	Eric Shipton: Everest and Beyond	290pp/24cm	Constable	1999	購入
George B. Schaller	Wildlife of the Tibetan Steppe	373pp/24cm	Univ.of Chicago P.	1998	購入

会務報告

四月理事会

日時 四月十二日 十八時三十分
場所 日本山岳会会議室

〔出席者〕 大塚会長、小倉、大森、竹内各副会長、西村、村井(龍)、森、宮崎、高原、勝山、村井(葵)、高遠、藤井(宮下代理)、鯉坂、松原、増山、坂井、河西各理事、神崎、中村各監事、平山、中川、吉永各常任評議員
〔委任〕 坂本理事、平野、田邊各常任評議員

〔審議事項〕

- 一、平成十二年度総会議案
 - ①平成十一年度事業報告(別紙資料)について(西村) 承認
 - ②平成十一年度収支決算(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録報告(村井龍) 承認
 - ③監査(四月十一日実施)結果はいずれも正確かつ適正に処理されている旨文書による報告(神崎、中村)
 - ④平成十一年度未除籍対象者は七十六名、連絡をとる(村井龍)
- 以上三月理事会で承認されている平成十二年度事業計画、収支予算を含め総会へ付議するすべての議案が承認されたことを確認。
- 二、掲載許可、リスト・資料の使用、

写真貸し出しなどの許可願(西村)
①文藝春秋社よりナンバープラス「ニッポンの挑戦」(五月十一日発売)に一九二一年の横恒氏アイガー登攀記事と写真の掲載。(西村) 承認

②山と溪谷社より「日本三〇〇名山登山ガイド」の企画に、当会が選定した三〇〇名山リストを使用。(西村) (小倉厚会員の了解を条件に)承認

③植村記念財団より四月二十九日より九月二十四日までの展示会「エベレストに立つ」で使用するエベレスト模型および映像「エベレストへの道」の二点の借用。 承認

④毎日新聞社より「さよなら二十世紀カメラがとらえた日本の一〇〇年」展に今西寿雄氏撮影の写真「マナスル頂上に立つギヤルツェン」の貸し出し(二〇〇〇年三月より二〇〇一年六月まで)依頼。 承認

三、重複本寄贈依頼(西村)
孫慶錫名誉会員より昨秋ソウル市郊外に開館した「韓国登山文化院」に備える図書として。(日本山岳会の寄贈図書と明示、送料は依頼者の負担を条件に) 承認

四、資料使用期間の更新願(西村)
日本体育・学校教育センター(秩父宮記念スポーツ博物館)よりマナスル登山関連資料(頂上の石他三点、合計四点)。資料委で品物確認の上承認

〔報告事項〕

今年もさげんで会いましょう

一、中国登山協会の曾曙生主席がアジア山岳連盟理事会出席のため来日中。歓迎パーティーを四月十三日、グリーンホテル水道橋で開催、十九名出席予定。日中友好登山二十周年記念事業内容の打ち合わせ。(増山)

二、アルバータ二〇〇〇実行委員会より三月十八日から二十四日までカナダ山岳会会長、副会長、ジャスパライエローヘッド山岳博物館館長が来日、大塚会長以下日本側実行委員会メンバーと登山、記念行事(予算案、カナダ観光局・アルバータ州政府の役割、同行マスコミ関係者の参加条件など)について打ち合わせ。

三、支部行事参加(四月八日の山陰支部へ大塚会長、(同日山梨支部へ小倉副会長)報告。

四、上高地山研においてミニ水力発電完工式および運転を五月十五日実施予定。(小倉副会長)

五、委員会報告

総務委員会・高原

四月一日、一九九九年下期新入会員オリエンテーションを会議室で開催。参加者十九名。

図書管理小委員会・村井(龍)

図書の寄託は、三月理事会で承認

された北海道支部と本の種類などについて話し合っている。また関西支部の依頼で「山岳」欠号十七冊を寄贈。新入会員のオリエンテーション出席者に「山岳一九九八年」を贈呈。会報編集委員会・村井(葵)

「山」四月号巻頭は「日本山岳会の図書室」に関する原稿を掲載。
海外連絡委員会・増山、中村

①アメリカの登山家ジム・ウィットカー氏(一九六三年エベレスト西稜初登頂、七八年K2登山隊長)が来日、二十日夕刻よりルームで大塚会長と会談の予定。

②四月十日、ネパール登山協会会長タシ・ザンブー・シェルパ氏(一九八八年エベレスト三合同登山ネパール登攀隊長)が当会を来訪、大塚会長と会談した。
遭難対策委員会・松原

インターネットホームページ作成を計画している。山岳遭難のアンケートを収集しデータベースとしたい。

その他

①各支部の支部長が交代したときは新支部長のプロフィールを会報で紹介する。

②評議員会を四月十五日十三時より

開催。総会議案などが議題。

■会員異動

物故
野田福五郎 (三〇七九) 00・4・2
紀伊輝彦 (四七二七) 00・4・24
退会

竹内通雄 (五三〇四)
山之内秀一郎 (九一九六)

三品武彦 (九二八二)
加藤秀夫 (九五七三)

日浦厚子 (二〇九〇三)
渡辺 惇 (二一〇六二)

上野明人 (二二二三五)
福島一三 (二一三九〇)

終身会員
堀越利男 (四二五五)

小椋凱夫 (四八五二)

INFORMATION



イラスト・村上直温

◆インタープリター養成セミナー

山研運営委員会
自然解説の概要からインタープリ

テーションの方法、ガイドウォーク
計画実習などを学びます。

期日 八月十七日(木)〜二十日(日)

場所 上高地山岳研究所

講師 森美文(山研運営委員、元国
定公園ビジターセンター自然
解説員)、他

対象 十八歳以上でインタープリタ
ーを目指す環境教育指導者、
教員、学生など二十名

*自然の知識や解説経験のない方も
参加可

費用 四万二千円(非会員は四万八
千円) 研修費、教材費、宿泊
費、食事代を含む

申込 七月末日までに、森美文宛
(二二四〇・〇〇二横浜市
保土ヶ谷区月見台四四・七

TEL・FAX〇四五・三四一・五一
八五)

◆第十七回全国支部懇談会

東九州支部

日時 九月十六日(土)〜十七日(日)
十六日日程

受付 十二時「つるみ荘」
記念講演会 十三時〜十四時三十分

講師・斎藤惇生(前会長)
演題・ヒマラヤ山地(仮題)

懇談会・〜十七時
懇親会・十八時〜二十一時

十七日久住登山
つるみ荘―牧ノ戸峠―Aコー

スのみ中岳經由―久住山―赤
川―大分駅十五時解散

費用 一万九千八百円 定員二百名

申込 八月十日までに西孝子宛(〒
八七〇・〇〇二一 大分市府
内町一・三・一六 TEL&FAX〇
九七・五三二・〇九二六)

*申込者には詳細案内を送付します。

◆五周年記念山行・集会のお知らせ
95同期会

日時 七月十四日(金)〜十六日(日)

場所 学習院日光光徳小屋
山行 十五日女峰山(十四日夜集合)
集会のみに参加の方は十五日
夜に集合

締切 七月八日(土) 先着三十名

申込 ハガキかFAXに氏名、会員番号、
年齢、TEL&FAX番号を明記して

福岡孝昭宛(〒一六六・〇〇
一二 杉並区和田一・三五・
一一)

FAX〇三・五三四〇・八五四四

*申込者には詳細を送付します。

◆日本山岳画協会展

期日 七月三日(月)〜九日(日) 十一時
〜十八時三十分(最終日は十
七時まで) 入場無料

会場 朝日アートギャラリー(東京
都中央区銀座四・一〇一 TEL
〇三・三五六七・一六七二)

問合せ 牧潤一まで (TEL&FAX〇四九
二・六四・七三六九)

■訂正 五月号一九ページ一段九行
目、「フォーラム in 秋山郷・苗場
山」の期日、八月十九日(土)〜二十一
(日)は(月)の誤りでした。お詫びして訂
正します。

◆編集後記

●巻頭に、発展著しいインターネッ
トのJACにおける進捗状況を掲載
しました。メールおよびホームページ
のアドレスは奥付に記載しました。
ぜひアクセスを!

●会報「山」は、会員の皆さまの投
稿を中心に編集しておりますが、機
関紙のひとつの目的として、後世に
記録を残す重要な役割も担っていま
す。さらなるご協力をお願いします。
●原稿の締め切りは前月の十日、八
月号(八月二十日発行)は七月十日
(四十日前)です。特にインフォメ
ーションの行事案内などは、時機を
逸すると掲載できない場合もありま
すのでご注意ください。(村井葵)

日本山岳会会報 山 661号
2000年(平成12年)6月20日発行
発行所 社団法人日本山岳会
〒102-0081
東京都千代田区四番町5-4
サンビュウハイツ四番町
TEL 東京(03)3261-4433
FAX 東京(03)3261-4441
ホームページ: http://www.jac.or.jp
E-メール: jac-info@jac.or.jp
発行者 大塚博美
編集人 村井 葵
印刷 株式会社 双陽社